



令和3年3月19日

## 第24期火災予防審議会の答申について

令和3年3月25日（木）に都知事の諮問機関である「火災予防審議会」（会長 なかばやし いつき 中林 一樹 東京都立大学名誉教授）において、答申がなされることから、下記のとおりお知らせいたします。

本答申は、令和元年7月に諮問された2つのテーマに対し、人命安全対策部会と地震対策部会を設け、それぞれ約2年間にわたる検討を行ってきた結果となります。

### 記

#### 1 日時

令和3年3月25日（木） 10時15分から

#### 2 場所

スクワール麴町4階会議室  
千代田区麴町6-6

#### 3 答申内容

- (1) 人命安全対策部会（部会長 のぐち たかふみ 野口 貴文 東京大学大学院教授）  
スマートシティにおける超高齢社会の防火安全対策のあり方（別紙1）
- (2) 地震対策部会（部会長 いといがわ えいいち 糸井川 栄一 筑波大学教授）  
社会情勢の変化と技術革新を見据えた震災対策のあり方（別紙2）

#### 4 スケジュール

別表のとおり

#### 5 その他

- (1) 本総会は新型コロナウイルス感染症対策としてWEB会議方式により開催し、火災予防審議会委員は会長、副会長、人命安全対策部会長および地震対策部会長を除き、原則WEBでの参加となります。総会の模様は現地別室でご視聴いただく環境を準備しております。
- (2) 取材を希望する社は、3月24日（水）12時00分までに広報課報道係へご連絡ください。

- (3) 当日は9時45分からスクワール麹町1階ホールで受付を行います。
- (4) 取材の際は自社腕章を着用してください。
- (5) 駐車場はありませんのでご了承ください。
- (6) 新型コロナウイルス感染症予防対策として、マスクの着用、テレビは1社3名以内、それ以外の社は1社1名とさせていただきます。ただし、テレビ以外の社のうち、スチールに加えムービーの撮影を希望する社は、2名まで取材可能とします。

問合せ先

東京消防庁(代)	3212 - 2111
予防課 予防対策担当	内線 4724
震災対策課防災調査係	内線 3982
広報課 報道係	内線 2345

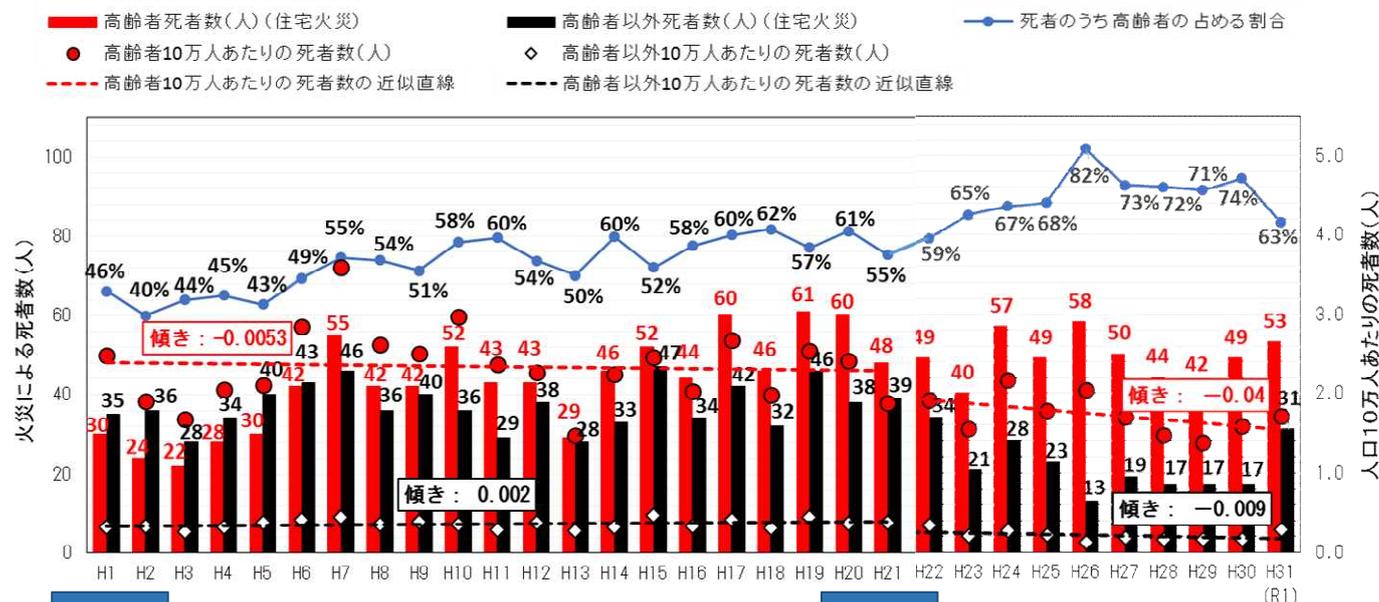
別表

時 間	内 容
10:15	総会 開会 <b>※冒頭の撮影可能</b>
10:20	人命安全対策部会（野口部会長）による答申（案）概要説明 「スマート シティにおける超高齢社会の防火安全対策のあり方」
10:35	地震対策部会（糸井川部会長）による答申（案）概要説明 「社会情勢の変化と技術革新を見据えた震災対策のあり方」
10:50	質疑・採決
10:53	<small>なかばやし</small> <small>いつき</small> 中林 一樹 会長 挨拶 <small>さの</small> 佐野 いくお 東京都議会警察消防委員会委員長 挨拶 <small>あんどう</small> <small>としお</small> 安藤 俊雄 消防総監 挨拶 <b>※挨拶時の撮影可能</b>
11:00	総会 閉会
～	出席者の会場移動
11:03	答申開始 中林会長及び安藤消防総監自席から広報パネル前へ 答申書を会長から消防総監に手渡し <b>※答申時の撮影可能</b>
11:05	閉 会
11:05 ～	担当への質疑

# 第24期火災予防審議会（人命安全対策部会） 答申(案) 概要

## 諮問事項「スマートシティにおける超高齢社会の防火安全対策の在り方」

### 1 現状と課題



#### 課題

- 住宅火災による死者のうち高齢者の占める割合の更なる増加のおそれ
- 高齢者が安全で安心して暮らせる住宅防火対策



#### 検討

- スマートシティの中で、高齢者が住宅で安全で安心して暮らすためにどのような対策が求められるか
- IoTやAIの活用
- 従前からの住宅防火対策の効果

### 2 答申(案) (提言) の概要

#### ○ 継続的な防火安全対策

提言) スマートシティの到来前後に関わらず必要となるこれまで行ってきた対策の継続  
住宅火災の分析により、これまで東京消防庁が実施してきた住宅防火対策は一定の効果があることがわかり、積極的に継続する。

#### ○ スマートシティ化までの防火安全対策

提言) スマートシティ到来までの間、既存技術の組み合わせや資源で実施できる対策

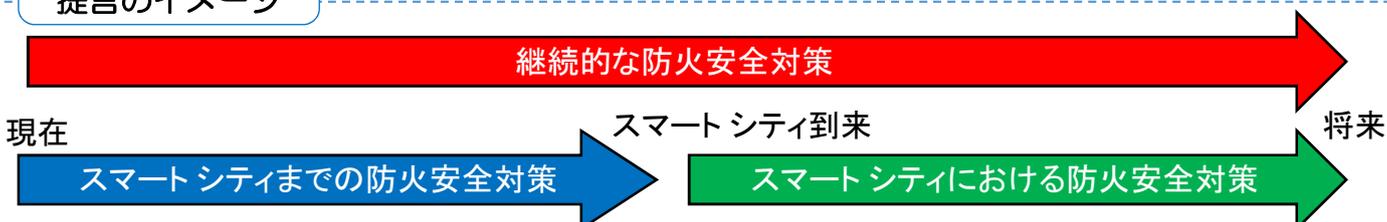
- ① 住警器取替えに関する周知及び交換や、屋外警報装置等の設置推進を図る。
- ② 居住者の生活様式に適した警報器の選択により、より早い感知の実現を図る。

#### ○ スマートシティにおける防火安全対策

提言) スマートシティ到来後、IoT等を活用した新しい対策

- ① スマートメーターやホームコントローラー等により得られる情報を生かす。
- ② 火災やその予兆の早期発見について期待されるセンサー等の活用及び普及を推進する。

#### 提言のイメージ



## 第24期火災予防審議会（地震対策部会） 答申(案)概要

諮問事項 「社会情勢の変化と技術革新を見据えた震災対策の在り方」

### 1. 背景と課題

将来の東京： 社会の変化により、将来の地震時の被害は現在と異なる  
： 新技術による新たな震災対策が展開できる可能性

- ・ 将来（20年後）の東京で、注視すべき地震時の問題を整理
- ・ 将来に向けた「震災対策のあり方」と、その実現に必要な取り組みの検討

### 2 答申(案)（提言）の概要

#### 提言1 新たな地震時の問題

将来社会像から考えられる「地震時の問題」と、新技術を活用した対策のイメージを整理

主な「地震時の問題」（全10項目中）	（背景となる将来社会像）	（新技術を活用した対策イメージ）
・ 自助力／共助力の低下 ・ 要救助者の増加	超高齢社会の進展	5G/6GやAR・VR等を防災訓練に活用
・ 建物高層階での被害増 ・ 高層／大規模建物の機能停止	高層マンションの増加	・ ロボット、パワードスーツによる負担軽減 ・ IoTセンサー、ドローンからの情報収集
・ 市街地延焼リスクの継続 ・ 共同住宅火災、倒壊の増加	・ 地震火災リスクの分散、平準化 ・ 共同住宅の老朽化	AI、5G/6Gを活用した消防活動の遠隔情報支援、安全監視

+ ポストコロナ社会の動きを震災対策に生かす（対策へのデジタル活用、テレワーカーを共助へ等）

#### 提言2 技術革新を見据えた将来の震災対策のあり方

東京の将来像と新技術の活用を踏まえた今後の震災対策のコンセプトを提言

新技術と協創で実現する新たな震災対策	
目標	新技術の活用と、都民や関係機関との協力・創造により、変化に対応できる新たな震災対策の展開
推進する4つの力	先取的・俯瞰的・能動的な「状況把握力」の向上
	官民の多様な主体とのつながりを減災に活かす「連携推進力」の向上
	消防機関のシミュレーション技術や情報収集能力の高度化
	民間データの活用、区市町村との情報連携の高度化による、消防と官民との連携強化
地域と個の特性を踏まえた自主防災の「特性対応力」の向上	
変化する社会・環境と新技術に適応できる「変様適応力」の向上	
都民や事業所の主体的な防災力強化を消防が支援	
新技術を職員の訓練・育成などに活用、震災時の対応力を強化	

#### 提言3 将来の震災対策のあり方へ向けた準備

震災対策に新技術を導入する際、必要となる取り組みを提言

- 震災対策に活用する各種データの蓄積  
AIの活用に必要な、消防活動データの蓄積、データを取得するツールの整備
- 震災時用のシステム等の平時からの活用  
新技術への習熟、費用対効果の向上のため、震災時/平時を問わず活用できる情報システム等の構築
- 震災時の通信インフラ、電力の確保策の強化  
新技術の活用に伴う通信インフラ、電力への需要拡大に備えた、通信/電力の確保策の強化